

本草効能用語に関する研究

金恩瑕¹⁾, 吳龍澤¹⁾, 李丙旭²⁾¹⁾韓国 大邱韓医大学校大学院原典医史学教室²⁾韓国 釜山大学校韓医学専門大学院人文社会医学部

最近、韓医学の情報化・客観化を目指して多くの研究が進んでいる。知識を情報化・客観化するため、必ず先行されなければならないのが用語の標準化に対する研究である。しかし用語の標準化に関しては、まだ活発に研究されていない。そのため韓医学の情報化・客観化に関する研究には、多くの困難があった。最近、用語の標準化問題を解決するために、先決されなければならない韓医学用語の体系に対するいくつかの研究成果が出た。ただし、このような研究が実際に役に立つ水準となるためには、既存のような用語分類体系に関する研究のみならず、韓医師が患者を診療する時、直接的によく使う診断や治療行為と係わる用語に関する研究がもっとも必要である。

この研究の目的は、本草学 (herbal medicine) で現在使われている効能用語 (the virtues terms) を新しく分類し、概念 (concepts) の相対的な位置座標 (position coordinates) を設定して、本草効能研究 (herbal virtues research) の水準を今後高めることである。

それで本論文では、韓医学で患者を診療するのに、主な手段の一つである本草の効能と係わる用語の標準化に注目した。本草の効能関連用語を標準化するために、先決されなければならない研究の一環として、韓国の全国に現在ある韓医科大学で共通教材として使われている本草学の教科書を利用する。

まず本草学の教科書に記載されている本草の効能関連用語を抽出した。その結果から、本草効能用語の概念単位に関する研究を進行させた。効能関連用語を効能用語と主治用語として分類し、効能用語からは治療行為や治療結果などの多くの情報を抽出した。その後、抽出した情報の中で同じ属性を持っているものを一つのグループとして分類する。分類する過程は次のようである。

まず分類基準を帰納的に設定した上、各属性間の関係を整理して分類する。その結果から、現在よく使われている本草の効能用語の実態を把握して、今後の本草の効能に関する研究で活用できる情報を提示しようとした。本研究では、本草学の教科書に記載されている内容を基本として、本草効能関連用語から得られる情報をその属性によって分類した。また各情報の属性を代表する「代表用語」を設定した。その結果から次のような結論が得られた。

(1) 現在よく使われている本草学の教科書には、多様で重複し表現で使われる本草効能関連用語があった。その用語は抽出可能ないろいろな情報の属性によって、422個の代表概念の整理することができた。この整理により、一つの用語に多くの情報が混在されて使われているため発生する情報の曖昧性を乗り越え、本草効能に対する概念をより明確に区分して定義することができた。(2) 対象として分類された情報は、前の研究に基づいて詳細な分類が可能になった。他の情報は、述語に対する研究や生理・病理の関連用語に対する研究が進行した後、詳細の分類できると考える。(3) 本研究で「未詳」となっている情報は、生理・病理関連用語の研究が進行した後、また用語の表現をその用語の意味に当たって変換する研究が進行した後で、代表概念として整理できると考える。(4) 本研究を通じて得られた代表概念を、生理・病理などの多様な分野の研究結果と共に活用すれば、韓医学を情報化・客観化し、韓医学関連知識を活用するのに役立つと判断される。